イタリア・ラクイラにおける都市創設に関する研究

建設工学専攻　505059　羽田 理悦子（はだ りえこ）
建築史研究　指導教員　伊藤 洋子教授

Ⅰ　はじめに

□　序論

ヨーロッパ圏、アジア圏において、城壁に囲まれた都市が確認できる。近代以前の社会において、城壁・防衛施設を持ち、軍事的意味が付きまとうものが都市と考えられていた。この時代において、要塞化と都市計画というものは融合したものであった。そして、今もその特質を多く保っているといえる。

イタリアには今も尚、城壁を残す街が数多く存在し、各地域それぞれ特徴ある街並みを残している。その多くが中世に起源をもつ街であり、ラクイラもその一つである。

□　研究目的・方法

ラクイラ創設期に視点を置き、中世のニュータウンとして建設されたラクイラにおける都市形成の一端を明らかにすることを目的とする。

現地における文献調査並びに実測調査から分析を行う。ラクイラ創設を担った周辺カステッロの現状を調べるため、カステッロ・ディ・カスティリオーネにおいて、2006年7月3日～28日にラクイラ大学考古学研究室で行われた発掘調査に参加、実測調査を行った。

Ⅱ　ラクイラ

1　概要

図1　イタリア・ラクイラ地図

ラクイラは、イタリア共和国アブルッツォ州、ラクイラ県の県都にあたり、かつ州都である。面積466 km²、人口約7万人、海抜714 m。1254年に都市として創建され、当時の名はアクイラ (Aquila ワシの意) といった。1861年からアクイラ・デッリ・アブルッツィ (Aquila degli Abruzzi) と称し、1939年から現在のラクイラ (L'Aquila) という名称となった。

市はこの土地にあった多くの村の連合によって創建された。それぞれの村は都市の中に自分の区画をもち、母胎となった村と結ばれていた。中世以来シチリア王国、後にはナポリ王国の支配を受ける自治都市であったが、短期間教皇領となったこともある。

2　ラクイラ創設

ラクイラ創設は、教皇派と神聖皇帝派の争いの中で計画された。1229年に教皇グレゴリオ4世の勅書により始まったが、この時には実現されなかった。それに対して、1250年神聖皇帝フェデリコ2世 (シチリア王1世) により、新しい都市を造る為の資格免許状が、ラクイラ周辺部 (アミテルノとフォルコーナ) にある数多くのカステッロ (城の意、ここでは村と考える) の住民達に与えられた。この辺りは南イタリア全体を支配下に置いた彼の領土の北端にあたり、教皇領と境界を接していたので、戦略上きわめて重要な場所だった。同時に、アドリア海とティレニア海を結ぶルートの交差点にあたり、交易、経済活動においても大きな意味を持っていたのである。権利を得た人々が、1254年フェデリコ2世に代わったコンラート4世の時に、同盟を結ぶ形でラクイラを創設した。

教皇アレッサンドロ4世は1256年、ラクイラに中世のいわゆる自治都市の資格を与え、ラクイラはポデスタ (行政長官) と市議会を持った。政治的にも宗教的にも重要な存在にあったので、教皇アレッサンドロ4世は1257年、この地域のそれまでの中心地、フォルコーナの古い司教座を生まれたばかりのラクイラに移した。

コンラート4世の庶子であるマンフレーディが1254年、王の座に着いたこの頃、教皇庁と激しく争っていた。ラクイラの市民は教皇側につき、マンフレーディの権力が自分の街に及ぶのを認めなかった。そこでマンフレーディは1259年、ラクイラを攻撃、当時、まだ簡素な木造の家ばかりだったラクイラはひとたまりもなく焼け落ちてしまった。

1266年、シチリア王を奪取したカルロ・ダンジオ (シャルル・ダンジュー) がラクイラの再建を開始、神聖ローマ帝国 (皇帝派) の配下から、フランス王家カペー家の分家アンジュー家 (教皇派) の配下に変わった。人口も戻って、繁栄の時代を迎えることとなる。1266年から1300年にかけての安定した時代に、碁盤目状の道路網が整備され、周辺カステッロの多くの住民が城壁の内部に移住した。こうしてラクイラ独自の面白い都市構造が生まれた。

3　カステッロ 99

それぞれのカステッロは、城壁内に住民数に比例した土地を与えられ、ロカーレ (locale その土地の) と呼ばれる地区を形成した。ロカーレは元々のカステッロと同じ名前が付けられた。それぞれのロカーレには、①自治達の守護聖人を祀った教会、②広場、③噴水が設けられた。その数は伝説によれば「99」ということになる。しかし、この99という数は、17世紀末に現れたものである。1294年のカルロ2世の都市建設に関するリストには、71のカステッロの名前が挙がっていることから、実際は、ラクイラの創設に関わった周辺カステッロは71である。

1530年頃のスペイン政府により行われたカステッロによる街の分権に関する記録に、62の人の住むカステッロと、37の人の住んでいないカステッロがあると記述されている。ここから、ラクイラは99のカステッロから創設されたと伝えられてきてしまったのである。

4　都市の分割

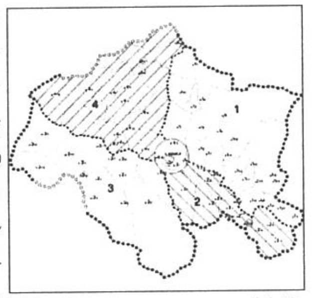

図2　ラクイラ周辺カステッロ分布図並びに4分区

1276年、フィレンツェのルッケシーノ長官が都市を4つに分割した。4つの地区とは、①サンタ・マリア・パガーニカ教会のあるサンタ・マリア地区、②サンタ・ジュスタ・ディ・バッザーノ教会のあるサン・ジョルジョ地区、③サン・マルチャーノ・ディ・ロイオ教会のあるサン・ジョバンニ地区、④サン・ピエトロ・ディ・コッピート教会のあるサン・ピエトロ地区である。それぞれの地区の内、一番重要と考えられた地区の教会が選ばれ、4分区の代表並びに、教区教会とされた。このことにより、少数の住民に支えられてきた小さな教会が消滅してしまうという現象が現れてきた。この地区割りは1850年まで続いた。

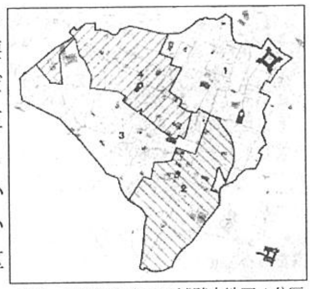

図3　現在のラクイラ城壁内地図4分区
1753年ヴァンディの地図参照

この都市の分割は、周辺区の構図が、都市内に反映された。周辺カステッロの位置関係が、都市内に入れ子状態で現れている。

5　現存する道路割りと地区教会

1753年、ヴァンディによって作成された地図は、地区割り、地区名が正確に明記されている初めての地図である。現在の地図と、ヴァンディの地図を比較する (図3)。1532年スペイン人によって建てられた北東の城部分、19世紀末に大規模な道路開発が行われた市の南西部では、かつての面影をみることは出来ないが、その他の地域に関しては、今の街区にそのまま区割りが使える程、創設当時の様子が今でも残っていると言える。

それぞれのカステッロの地区教会の現存を調べたところ、教区教会は4つとも現存していたが、他の地区教会は、現存するものが11教会と、かなり少数になってしまっている。

表1　年代別教区教会と地区教会の数

年代	1296年	1753年	2006年
教区教会	4	4	4
地区教会	51	22	11

地区教会の減少は、年が経つにつれて、住民達の地区教会への意識が低下していった事の表れだと考えられる。

6　妻入り住居

6－1　妻入り住居の現存状況

図4　casa via dei Ghibellini

ラクイラでは、カルロ・ダンジオによる都市再建の後、切妻屋根・妻入りのスキエラ型住宅が造られた。これは街の創設時期の特徴を現すものであるが、地震による崩壊などで、今残っているものは数少ない。

カルロ2世が1294年に出した市の法律では、建築についても定められている。そこに住民達の住居についても書かれており、平面は4 canne × 4 canne(約8 m × 8 m) の網目状のモジュールにそって、高さは4 canne(約8 m) という規制の上で家が建てられた。

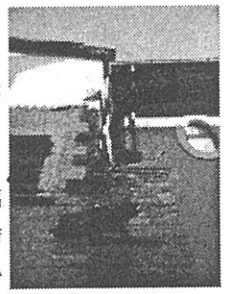

図5　RUA

また、切妻屋根の排水処理の為RUAという空間が、家々の間に設けられた。幅は約30cm、当時は雨水処理の他にゴミ捨ての為にも使われていたようである。RUAは今でも街中に多く見られる。

調査により4棟の妻入り住居を発見することができた (メインの通りに面したファサードが妻入りであり、他の家との構造がはっきり分かれていることを条件とした)。

表2　妻入り住居の実測値

住居	幅員 (m)	棟高 (m)
1.casa via dei Ghibellini	7.435	7.66
2.casa via rocca di Corno	7.154	5.50
3.casa via ed Arco del Capro	7.286	7.49
4.casa via Sassa	7.953	7.27

③サン・ジョバンニ地区に2棟 (住居1・2)、④サン・ピエトロ地区に2棟 (住居3・4) である。幅員は、4棟とも差はあるものの、平均値は7.457となり、約7.5 m。棟高については、他のものに比べて明らかに低い2.ロッカ・ディ・コルノの家を除いた平均値は7.473となり、約7.5 mという値が得られた。この事からも、1・3・4の家については、当時の建設であると言える。幅員・軒高共に規定の8 mに満たない理由として、幅員については、片側または両側に位置するRUAを測定に入れなかったこと、高さについては、ファサードの最高部までしか計測できなかったことが挙げられる。

6－2　RUAの残存

妻入り住居の残存は少ないが、RUA(水処理システム) の痕跡は街中にたくさん見ることができる。地震の後、建て替えが行われた際に、元々あった基盤を使ったからである。その痕跡が見られるところは妻入り住居があった可能性が高い。

Ⅲ　周辺カステッロ

Ⅱ・2でも述べたように、ラクイラは周辺の多くのカステッロの人々が造り上げた。その内の一つが、カステッロ・ディ・カスティリオーネである。

1　カステッロ・ディ・カスティリオーネ

ラクイラ県のトルニンパルテというコムーネにカスティリオーネと呼ばれる街が存在する。ラクイラ市の南西に位置し、古くは前ローマ時代から、防衛の要所として、機能してきた。街を見下ろすようにして山頂に城が造られたが、今は廃墟と化している。街には常に人は住んでおらず、街としての機能はなしていない。

前ローマ時代、カスティリオーネの開けた谷はアミテルニーノ (この時代の要衝地) を守る前哨地点としての役割をなしていた。その後、ローマ帝国の配下から、サビーニ族の従属に代わった。7世紀にはスポレート公国の一部になり、その後フランク人の支配地に代わり、この頃ベラルド伯爵が城を築くように命じている (8世紀前後、年代は定かではない)。

この時代、封建領主によるそれぞれの統治が始まり、独立した領地が増加した。その為、互いの暴力から身を守る必要性が生じ、それぞれのボルゴの周辺に高い壁を設け、山の上など、防衛に見合った場所に防衛居住地を設置した。こうしてカステッロ・ディ・カスティリオーネのような城が多く建設された。

1251年、貴族による重税に苦しんでいたカスティリオーネの住民達は、反乱を起こした。住民達は城を攻撃、破壊し、貴族は住民達によって殺された。

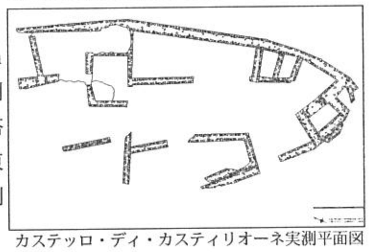

図6　カステッロ・ディ・カスティリオーネ実測平面図

現在、城自体は約1 m前後の周辺壁と、北東側に約3 mの崩れかけた塔を残すのみである。南東側にも塔があったと推測されている。

2　カステッロ・ディ・カスティリオーネのロカーレ

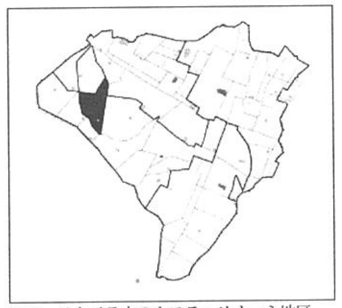

図7　ラクイラ内のカスティリオーネ地区

カスティリオーネはラクイラの新設に参加し、サン・ジョバンニ・ディ・カスティリオーネ地区を設置し、サンタ・アンジェロ・ディ・カスティリオーネ教会を建てた。しかし、この教会は現存しない。1753年ヴァンディの地図上ではすでに建物がなくなっている。

Ⅳ　総括

中世期、今まで支配されていた城を後にし、人々は自由を求めてこのラクイラを建設した。都市創設期の特徴として、周辺カステッロの存在、市壁内に設けられたロカーレ・4分区・妻入り住居の存在を挙げた。それぞれ、数あるイタリアの都市の中でもラクイラの特徴ある個性を示すものである。

[参考文献]
「L'AQUILA Le citta nella storia d'italia」
Alessandro Clementi Elio Piroddi 共著　Editori Laterza 発行
「Il castello di S.Angelo di Castiglione "Ju Castellacciu"」
Maurizio Santucci e Daniele Fusari 共著
「L'Aquila Citta di Piazze」
Mario Centofanti, Raffaele Colapietra, Claudia Conforti, Pierluigi Properzi, Luizi Zordan 共著　Carza Edizioni 発行
「城壁に囲まれた都市」ホースト・ドラクロア著　渡辺洋子訳　井上書院発行